



小池絵未の国際機関探訪



国連事務局

英利アルフィヤさん

国連事務局 事務次長・管理局長室

アソシエイト・エキスパート

現：国連事務局政務局 アジア太平洋部 政務官補

①いつ頃、国際機関で働こうと思 いましたか？

6歳の頃に母と海外旅行に行き、学校で使う鉛筆が買えるように夏休みにロバ車を運転している、自分と同じ6歳児に出会いました。

母の通訳でやっとの会話ができたのですが、なぜ私は夏休みに遊んでいるのに、この子は一緒に遊べないのだろうと思い、衝撃を受けました。

当時、私が通っていた小学校ではユニセフの募金を行っていて、国連とユニセフの存在だけは知っていたので、ユニセフはここには来ないのだろうか、また、自分も国連やユニセフのようなところで働いて、鉛筆を1本買うために働いている子供たちがこんな場所にもいるということを伝えたいと、強く思いました。

その後、世界の情勢をより深く理解できるようになればなるほど、国連のミッションに少しでも貢献したいという思いが深まっていきました。

②どのような学歴をお持ちですか？

日本で生まれ、小学校5年生の時に、父の仕事の都合で中国に移りました。

中国では、高校を卒業するまでアメリカンスクールに通いました。

大学では国際関係を深く学び、世界の構造や動きを理解したいと思い、アメリカのジョージタウン大学外交政策学院に留学し、国際政治と国際開発を勉強しました。

その後、同じ大学の外交政策大学院に進学し、主に中国と中央アジアの開発や政治を研究しました。この間、1年間大学院を休学し、中国・上海の復旦大学で中国語を勉強した後、上海の銀行と、ジュネーブのWHOでインターンシップを経験しました。

WHOでは、保健と人権を担当する部署で、特にエイズ患者や女性の保健の権利を確保・拡大するお仕事に携わりました。また、中国の新疆ウイグル自治区でもしばらく過ごしました。

この間、イリ・カザフ自治州でカザフ族の方々とも住ませてもらい、草原での生活を通して、色々なことを学びました。

その後、アメリカに戻り、大学院を卒業しました。



③国際機関に入る前はどのようなお仕事をしてきたのですか？

大学院を卒業した後は、日本銀行に就職しました。

大学在学中、アメリカにて金融危機とその影響を肌で感じ、卒業後は金融システムや経済の安定に携わるお仕事をしたかったことがきっかけです。

日本銀行では、4年間の間、国際局、仙台支店、金融機構局にて、東京で主催したIMF・世銀総会の事務局業務、東日本大震災後の復興状況を追う経済調査、国際的な金融規制の見直し(バーゼルIII)に向けた国際会議や部会への参画、日本国内の銀行の実地考査など、色々なお仕事を体験しました。

④どのような方法で国際機関に入りましたか？

日本、特に日銀でのお仕事を体験させて頂き、日本人として、日本から国際社会に貢献できるかたちがたくさんあるということを知るとともに、子供のころからの夢であった、国連という場から世界に貢献するお仕事も体験したいという思いが強まってきました。

この間JPO試験に合格し、2016年10月に今の部署(注:国連事務局事務次長・管理局長室)に配属となりました。

⑤現在の仕事について詳しく教えてください！

ニューヨークの国連事務局の事務次長(管理局長)室で、事務次長のサポートをするお仕事をしています。

管理局は、国連がより上手く回るための政策立案と組織管理の双方を担当している部署で、海外事務所やPKOなども含む、国連事務局全体の財政、人的資源、支援サービスの企画・調整・管理を担っています。

この中で、財政、予算、人事、調達、ITシステム、国連改革などに関し、事務次長のデスクに上がるものを各関連部署と纏めたり、事務次長や事務総長向けの発言・スピーチ案やブリーフィングノートの執筆・取り纏めを行っています。

国連改革においては、マネジメント改革に関する各部署との調整や、加盟国へ提案するレポートなどの執筆・取り纏めにも参画しています。

⑥今後のキャリアについてどのようにお考えですか？

将来的には、フィールド・オフィスでのお仕事も経験したいですし、可能であれば政務、開発、行政・管理など幅広い分野を経験し、あらゆる面から国連に携わるキャリアを積みたいです。



⑦国際機関を目指している方にメッセージをお願いします。

失敗を恐れず、自分の心地いい場所から抜け出して、色々なものを経験し、吸収して頂きたいと思います！

その理由は4つあります。

1つは、自分が慣れているところから抜け出すことにより、自分の意見や考え方を見つめ直すきっかけができ、自分と異なる意見や考え方を受け入れ、理解する力が身につくと思うからです。

国際機関で気持ちよく働くには、自分の軸をしっかりと持ちつつ、様々な意見や考え方を受け入れるキャパシティを持つことが必要となると思います。

2つ目は、他人の苦しみや境遇を理解する力を身につけるためです。

日本人として、日本社会で育つと、日本と全く違う環境で苦しい状況に置かれている方々の境遇や痛みを理解することは難しいと思います。

色々な事を経験して、色々な人と出会うことにより、自分と違う環境にいる人たちの思いを感じ、立場を理解し、機会や必要性があれば、どのようにその人たちの力になれるか、現実的かつ具体的に考える事ができるようになるかと思います。

3つ目は語学力と、語学の理解力が身につくと思うからです。

残念ながら日本語は国連公用語ではないので、日本人が国際機関で働くには、日本語、もしくはその他の母国語を含む語学の理解力と、少なくとも英語の語学力を身につける事が必須となります。

言葉だけではなく、言葉の裏にある文化的背景、価値観、世界観を理解する事も重要だと思います。

4つ目は、最終的には自分が何をしたいのか、何を求めている、誰のために、どういう仕事がしたいのか、考えるきっかけがたくさんできると思うからです。

色々なことにチャレンジすることによって、なぜ国際機関で働きたいのか、国際機関で何がしたいのかが、より具体的に見えてくると思います。じっくりとキャリアをみつめて、頑張ってください！

⑧今回の取材を振り返って、感じたこと。

アルフィヤさんは、とても明るくてチャーミングで、そしてスマートな方でした。

アメリカ、日本、中国、ジュネーブに住んで、ものすごくアクティブだなという印象でした。

特にウイグルの草原にいきなり住むという普通では出来ない体験のお話が印象的でした。

カザフ族と一緒に馬の乗り方や狩りの仕方や牛の乳の絞り方や毒キノコの見分け方など色々なことを学び、人間の小ささを実感したようです。

“まわりの自然や動物がどれくらい大きい力であるか、それにどれくらい支えられて私たちが生きているのかが肌で実感できる。自分を見直すいい機会にもなる”とお話していただきました。

エネルギーたっぷりでも何でもチャレンジするアルフィヤさんの様な素敵でキラキラ輝いた日本人女性がこれからもっともっと世界で活躍することに期待しましょう！



小池絵未(Emi Koike)

1983年11月7日生まれ。東京都渋谷区出身。

高校から競技チアを開始し、3年連続で日本選手権大会第3位。米国ウェスタン・ケンタッキー大学に進学。大学のチアダンスチームに所属し、2005年全米大学チア・アンド・ダンス選手権で優勝。

その後、NHLナッシュビル・プレデターズ、アトランタ・ホークス、NHLアトランタ・スラッシャーズのダンスチームのメンバーとして活躍。2011年からはNFLのチアリーダーとしてニューヨーク・ジェッツで活躍。

NFL、NBA、NHLの米国3大スポーツリーグでチアリーダーに選出されるのは、日本人としては史上初。2013年チアリーダーを引退し、日本テレビNFL倶楽部の現地リポーターとして活動中。ニューヨーク在住現地スポーツリポーターとして、NFLだけでなく、NBA、MLBの取材にも携わっている。

英利さんからのメッセージ動画↓



https://www.mofa-irc.go.jp/dl-data/Eri_Alfueya.MP4

※容量が大きいのでご注意ください。

外務省 国際機関人事センターNewsletter
「小池絵未のNY発国際機関探訪」VOL.12

出演：英利 アルフィヤ 国連事務局
事務次長・管理局長室 アソシエイト・エキスパート

取材地：NY

2018年11月26日発行



外務省 国際機関人事センター

jinji-center@mofa.go.jp / 03-5501-8238 <http://www.mofa-irc.go.jp>



<https://www.facebook.com/MOFA.jinji.center>